

安心のまちづくりのために

第50回

高齢者の暮らしを考える

インタビュー

「認知症地域支援推進員の活動について」

65歳以上の7人に1人が認知症と言われている現代。最近では高齢者のみならず40代での発症もある若年性認知症についての認知も広がっています。認知症であってもそうでなくても誰もが住みやすい街づくりのために各地域で認知症地域支援推進員がさまざまな活動をしています。

今回、産業振興センターで行われた認知症についての講演会にお邪魔し、認知症地域支援推進員の活動についてお伺いしました。



認知症地域支援推進員が企画した「若年性認知症講演会」(令和元年6月)



認知症地域支援推進員(左から)
第四地域包括支援センター
奥田さん
第一地域包括支援センター
辻さん
第二地域包括支援センター
田中さん
第三地域包括支援センター
竹内さん
第五地域包括支援センター
山本さん

認知症地域支援推進員の活動について教えてください。

各地域包括支援センターにいる推進員が地域の事業所や住民の人と一緒に、認知症になっても住みやすいまちづくりを目標として認知症サポーター養成講座、認知症カフェなどを開催しています。認知症カフェでは、誰もが集えるカフェを目指し、認知症の人を介護しているご家族が気軽に相談したり、情報交換したりできる場を作っています。市内では11カ所開催しており、中には実際の喫茶店に協力してもらい開催している認知症カフェもあります。今後は介護者に加えて、当事者が足を運

べるようなカフェなども展開できればと思います。

そして、松阪市は認知症サポーター養成講座に加えて、高齢者安心見守り隊の養成講座も開催しています。最近では、住民の人から「認知症になったらどんな感じなんだろう、何か周りがした方がよいことはあるの?」と認知症の人への関心が高まっているので、大変嬉しく感じます。

認知症サポーター養成講座の受講者にはオレンジリングを渡しています。介護者から「オレンジリングを持っている人を見ると安心する」という声をよく耳にします。医療・介護従事者だけではなく、地域の人が認知症について正しく理解をして、見守ってくれていることが一番安心でき、大切なことだと思います。

認知症は誰でもなり得る可能性がある病気です。「まちづくり＝人づくり」ということを念頭に置き、地域で暮らす一人ひとりの認知症についての意識向上を目指していきます。

